



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

OKAYAMA UNIVERSITY

SDGs大学経営が導く 「新たなパラダイムの共創」



私たちが共創する
「SDGs大学経営」

企業においては今日、これまでのCSR(Corporate Social Responsibility)から「より倫理的な要素を含んだSDGsを企業経営に取り込むことを推進しています。大学においてもUSR(University Social Responsibility)が求められるようになり、多くの大学でSDGsの活動が展開されています。岡山大学では、USRの新たなパラダイムとして「SDGs活動を通じたウェルビーイング大学経営モデル」を提案します。大学がその持てる資源を活かして地域・世界に貢献するこれまでの大学経営を「Seeds Driven USR」とすれば、SDGs大学経営とは、ウェルビーイングの観点から地域・世界の課題を常に価値創造の中心に置く「Needs Driven USR」といえます。

SDGs大学経営のプロセスは、ありたい姿を共有するバックキャストイングから始まります。本学では、「長期ビジョン2030」に示した岡山の調査(2019)となりまし

大学のありたい姿からバックキャストイングして、「岡山大学ビジョン2030」のもと、2019年度からの3年間の具体的な行動計画を示しています。

次はSDGsを枠組みとして地域課題と世界共通の課題を取り込むアウトサイドインです。本学では地域からのワンストップの窓口として国際学都おかやま創生本部を設けました。2020年度には、岡山大学グローバル・エンゲージメント・オフィス(OUGE)を新設して、国連や国際機関などとの直接的連携を強化する中で地球規模の課題を取り込み、本学の教育研究資源だけでなく、地域の資源ともマッチングさせます。

地域と世界に広がるSDGsのネットワークを通じて社会課題を検討した後、多様なステークホルダーとの協働の場であるオープンイノベーションによって、解決策や新たな技術・制度・産業などを共創します。本学では、地域の産官学金言との協働の場である円卓会議や地域発展協議体、地域総合研究センター、岡山大学オープンイノ



ベーション機構など多様な場を設けています。共創することで課題解決を加速し、人材育成と社会イノベーションを通して世界と地域に新たな価値を創造するソーシャルインプレメンテーションにつながることも、得られた創造的価値を地域から世界に発信していきます。

SDGs大学経営への歩み

岡山大学は、1994年に国立大学で初めての「環境」の名を冠した環境理工学部を設置した大学です。2004年の国立大学の法人化に際しては、

「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」を大学の目的と定めています。2007年には、ESD(Education for Sustainable Development)を推進するアジア初のユネスコチェアの認定を受けて、岡山市域の多様なステークホルダーとともにESD活動を推進してきました。これが今日の岡山大学SDGsの基盤です。

岡山大学SDGsは、榎野博史学長が就任した2017年度にスタートしました。「SDGsに関する岡山大学の行動指針」を策定し、国際機関や地域の産官学金言とのパートナーシップを構築した第1段階です。2018年度は第2段階として、本学の教育研究活動をSDGsの17ゴールと関連付けた「SDGsの達成に向けた岡山大学の取組事例集」を作成しました。2018年度には、岡山経済同友会がSDGs

を活動の軸とすることを表明し、岡山市と真庭市は「SDGs未来都市」に選定されるなど地域の取り組みが活発化して、岡山県のSDGs名称認知率は全国1位(電通ジャパンブラン

ド調査2019)となりまし

た。本学は、創立70周年を迎えた2019年度を「SDGs大学経営元年」と位置付けて、岡山大学SDGsの第3段階をスタートさせました。SDG大学経営とは、SDGsへの貢献を大学経営の中核に置き、教育・研究・社会実装の大学機能のすべてに反映させて、①バックキャストイング、②アウトサイドイン、③オープンイノベーション、④ソーシャルインプレメンテーションの4つのプロセスにより、大学の知の資源を活用して社会から信頼を得ていく営みと考えています。榎野学長は、2019年7月の国連ハイレベル政治フォーラム(HILPF)に伴い開催されたサイドイベント「ESD for 2030」において、ESDの成果とともにSDGs大学経営(A whole institution's approach towards achieving the SDGs)について報告しました。その後、パネルディスカッションで、持続可能な開発の教育なしにSDGsは達成できず、その鍵となるのがESDであり、岡

University Information

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中1-1-1 URL: https://www.okayama-u.ac.jp/

「グローバル」なパートナーシップを基盤に SDGsの達成を目指す



国連本部での学長講演

山大学はその先駆けとしてSDGs 大学経営を展開していると評価されました。

岡山大学SDGsの 目指すもの

岡山は、古い歴史と文化を持ち豊かな自然環境が保たれた地域です。また江戸時代に庶民に開かれた学校である閑谷学校や近代化を牽引した津山洋学、大原孫三郎による大原奨農会農業研究所や倉敷社会問題研究所、大原總一郎の高梁川流域連盟、福武總一郎による海の復権を目指す瀬戸内国際芸術祭など、それぞれの時代の社会課題を解決するために社会イノベーションを生み出してきた



未来懇談会

らの提案は、今後のSDGs 大学経営に反映していきます。

グローバル・エンゲージメント による牽引

こうした組織のエンゲージメント力をグローバル社会の貢献へ発展させるために、学長と海外戦略担当副学長のリーダーシップの下、国際機関や海外大学との直接的な連携を図るグローバル・エンゲージメント・オフィスを設置しました。その活動は既に、岡山大学SDGs を牽引しています。2019年度は、前述した学長の国連本部での「ESD for 2030」への登壇を筆頭に多くの成果が得られました。

た歴史があります。

岡山大学SDGs は、この地域の歴史文化を受け継ぎ発展させて、サステイナビリティとウェルビーイングを存在価値（バリュー）とする人材育成と社会イノベーションの新たなパラダイムを共創していく取り組みです。この取り組みには、科学技術だけでなく、教育や文化芸術も重要な資源と考えています。

本学は、SDGs の目標年である2030年に向けた長期ビジョンとして「サステイナビリティとウェルビーイングを追究する研究大学として、人材育成と社会イノベーションで世界と地域に新たな価値を創造し、多様なステークホルダーとの協働によって、持続可能性と包摂性に富む『国際学都おかやまの創生』を実現すること」を表明しました。

岡山大学SDGsの ブランドイングと エンゲージメント

岡山大学SDGs については、2019年10月に発刊した



One Young World 2019

まず米国内務省重要言語奨学金(CLS)プログラムの受け入れ先に国立大学で初めて採択された本学は、2019年6月からの8週間、米国内務省により選抜された全米トップクラスの大学生・大学院生26名を受け入れました。このプログラムでは、県内25の自治体・企業などの協力を得て地域に根ざしたSDGs 学習を提供しました。

10月には、世界190ヶ国以上から次世代リーダーが集い、地球規模の課題を議論する世界最大級のユースサミット

「岡山大学統合報告書2019 Pay it Forward(日本語版・英語版)」で概要を示しています。この統合報告書は、岡山大学SDGs のブランドイング(共通のイメージを認識させること)のための学内外のコミュニケーションツールと考

えています。バージョンアップした日本語版・英語版の事例集とともに、統合報告書は本学のホームページに掲載しています。

ブランドイングはSDGs 大学経営のもう一つの要です。学外はもちろんです。が、むしろ学内のステークホルダーである学生・教職員に浸透させる「インナーブランドイング」が重要だと考えています。それは一人ひとりのやりがいや志(エンゲージメント)が高まることで、組織としてのエンゲージメント力が増大し、地域・世界へのエンゲージメントへとつなが



岡山大学 統合報告書 2019

「One Young World 2019」(ロンドン市)に本学学生2名を派遣し、全体セッションの1つで世界ユース代表の一人として登壇する機会も得ています。

11月にユネスコ関係機関と共に本学で開催した「ESD 教師教育世界会議」には、40カ国200名の教育関係者が参加し、ESD 教師教育のグローバルフレームワークを発信しました。

12月にはコスタリカの国連平和大学(UPEACE)・地球憲章国際本部(ICI)を訪問し、「ESD for 2030」の倫理的な枠組みとしての「地球憲章(Earth Charter)」の意義について理解を深めました。

2020年1月には、国連でSTI (Science Technology and Innovation) for SDGs を担当する国連貿易開発会議(UNCTAD)と、大学としては世界初のSTI人材育成に関わる包括協定を締結し、アセアン・アフリカの若手・女性人材育成プログラムについて協力の覚書

を結ぶことができました。また国連の「持続可能な開発

るからです。そこで、まず2019年7月に「岡山大学SDGs アンバサダー」制度を設けて、SDGs 活動に関心を持つ本学学生や高校生など約130名のSDGs アンバサダーを任命し、活動の支援を始めました。

その上で、2019年度の「岡山大学未来懇談会」のテーマに、「岡山大学×国連SDGs のさらなる深化にむけて」を取り上げました。未来懇談会は、本学の次世代を担う若手教職員が、自由な発想で持続可能な岡山大学を考える新たな大学ガバナンスのプラットフォームとして2017年度より開催しています。2019年度は、教職員42名に加えてSDGs アンバサダーの学生12名が議論に参加しました。その成果として、キャンパス環境・教育・研究の目に見える改善を実行するための計画案(2030年の状態、1年後の状態、今すぐできること)を提案し、岡山大学が「学びたい大学」、「働きたい職場」となる「もっと選びたい」なる岡山大学へ進化のための道筋を示してくれました。これ



UNCTADとMOU締結

のための海洋科学の10年」が始まる2021年に向けて、ユネスコチエアを活かして、2020年1月に海洋関連ユネスコチエアのドイツ・キール大学と、3月にはハワイ大学との国際共同研究の準備をしました。

岡山大学SDGs は、岡山という地域に根ざし、世界と直接つながることで推進してきました。これからも2030年に向けて、SDGs 大学経営により構成員一人ひとりのエンゲージメントを育み、SDGs 達成のための具体的で多様な事業構想力を組織的に深化発展させることで、サステイナビリティとウェルビーイングを追究する研究大学としてパートナーの皆様と共に前進してまいります。